

1.1 薬局・医療機関の現状（1/6）

■ 医療分野におけるデジタル化について

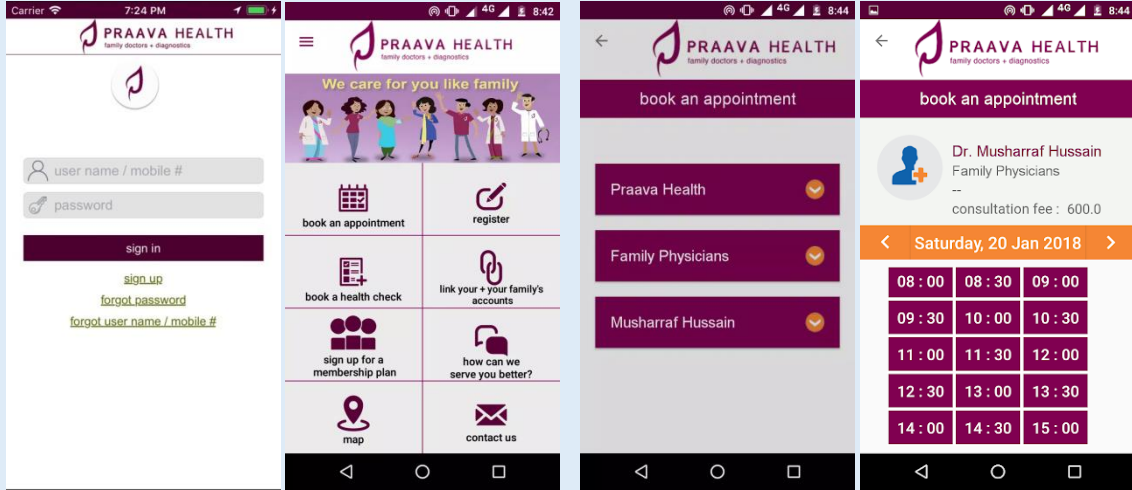
バングラデシュにおける医療分野のデジタル化の現状については調査がなされておらず、全国的なEMR及びPHRの導入状況を正確に把握することは困難である。しかし、同国の医療分野におけるデジタル化の現状としては大きく3つの形態が見受けられた。

- ①大部分の大規模私立病院及びクリニック（Apollo Hospitals, Square Hospitals, United Hospital等）では、独自の患者健康記録のためのデータベース・システムが使用されている(*)。
- ②ソフト開発企業が病院情報システムの一部として医局、検査ラボ、薬局等との間で患者情報を共有・管理するEMRシステムや患者に対するPHRシステムを医療機関に提供している。（P58-60参照）
- ③医療電子化を推進する企業（スタートアップ企業）が、EMR・PHRを含む患者情報管理システムを活用し、患者、診断センター、検査ラボ、薬局等の間で患者情報を共有・管理するシステムにより患者の見守り体制を構築している例もある。このようにペイシャントジャーニーを構築するスタートアップ企業もすでに存在しているため、本製品にも同国において一定のニーズがあると考えられる。（P58-60参照）

*出所

"DIGITAL TRANSFORMATION IN HEALTHCARE SERVICES SECTOR OF BANGLADESH: CURRENT STATUS, CHALLENGES AND FUTURE DIRECTION", Alam et al, Journal on Innovation and Sustainability RISUS, July 2020


1.1 薬局・医療機関の現状（2/6）

会社名	Praava Health		設立年：2016年、従業員数：450人
所在地	Plot 9, Road 17, Block C, Banani Dhaka 1212, Bangladesh		
事業内容	外来診療を行う独自の保健医療センター、検査ラボ、薬局を有し、これらの医師、検査技師及び薬剤師の専門性を活かしつつ、デジタル化による診察、検査、処方の切れ目のない医療サービスを展開。		
サービス	オンライン診察、電子処方箋のオンライン送付、医薬品のオンライン注文・宅配、自宅検体採取・オンラインの結果通知、オンライン決済、EMR・PHR		
製品画像 及び 製品の特徴			
	<p>1. 20の専門分野からなる50名の独自の医師チームにより毎日24時間オンライン受診が可能。最低でも15分の診察が保証されており、結果は専用アプリまたはeメールで受け取りが可能。</p> <p>2. 検査ラボでは、癌の分子診断を含む300種類以上の高度な検査が可能。独自の薬局では、オンライン注文の受け付けから医薬品の発送サービスまで行っている。</p>		
参照情報	Praava Health ホームページ https://praavahealth.com （2022年11月現在） 従業員数は、 https://www.datanyze.com/companies/praava-health/399237144 から引用		

1.1 薬局・医療機関の現状 (3/6)

会社名	DocTime	設立年：2020年、従業員数：100-200人
所在地	16-A, 2 Ring road, Dhaka 1207, Bangladesh	
事業内容	オンライン診察に加え、薬局、医薬品配達業者、診断センター、検査ラボ、電子決済会社との連携を通じ、総合的なサプライチェーンを構築しつつ、デジタル化により切れ目のない迅速な医療サービスを展開。	
サービス	医師によるオンライン診察、電子処方箋のオンライン送付、医薬品のオンライン注文・宅配、自宅検体採取・オンラインの結果通知、オンライン決済、EMR・PHR、患者への投薬通知	
9		
	<p>1. 専門分野や経歴等を参考にBMDC公認医師を症状に合わせて選択でき、毎日24時間オンライン受診が可能。医師の手数料を支払い後、ほぼ10分以内に受診ができ、受診直後には電子処方箋の受け取りが可能。</p> <p>2. オンラインで医薬品を注文後、2-3時間で受け取りが可能。検体は数時間以内に自宅で採取が可能、24時間以内に検査結果が専用アプリで通知される（アプリ評価は4.8（最高5.0）：2021年3月時点）。</p>	
参照情報	<p>DocTime ホームページ https://doctime.com.bd (2022年11月現在)</p> <p>従業員数は、https://www.signalhire.com/companies/doctimeから引用</p>	

1.1 薬局・医療機関の現状（4/6）

会社名	HAEFA Bangladesh (NPO団体) (製品名 : NIROG)	設立年：2013年、従業員数：不明
所在地	House 31, Road 16, Sector 13, Uttara, Dhaka-1230, Bangladesh	
事業内容	独自の個人特定手法に基づき、地方部でも利用可能な情報伝達方法によりEMR情報管理システムを構築し、ロヒンギャ難民に対する緊急支援として健康診断と治療（感染症、NCDs、妊産婦疾病）を展開。	
サービス	公衆保健師による健康診断を通じた健康状態データの集積、医師による遠隔診断、EMR・PHR	
製品画像 及び 製品の特徴	 <p>1. 指紋認証とバーコード及び写真付き身分証明書により個人を特定し、各患者に対する確な継続処置を行う。公衆保健師と患者がそれぞれ利用可能な通信手段（タブレット端末、携帯電話）を使用。</p> <p>2. 遠隔地方部で患者情報を収集するため、タブレット端末の電源として太陽光電池を活用したり、端末にオフラインで入力可能。入力情報は、オンライン環境の整った場所でアップロードする。</p>	
参照情報	DocTime ホームページ https://haefabd.org/our-approach （2022年11月現在）	

1.1 薬局・医療機関の現状（5/6）

■ EMR・会計ソフトの導入状況

前述のとおり、全国的なEMR及びPHRの導入状況を正確に把握することは困難であることから、本調査では、ダッカ市及びラッシャヒ市に存在する検査センター・クリニック・病院の各100件（計200件）において、会計ソフト及びEMR の導入状況についてヒアリング調査を行った。

- ダッカ市では100件中全ての機関が会計ソフトを導入し、EMRの導入は8件であった。また、ラッシャヒ市では100件中62件が会計ソフトを導入し、EMRの導入は3件であった。
- 特にラッシャヒ市では、デジタル化が遅れており、システム導入されていない医療機関では患者の疾病情報や診察・治療記録等の情報管理が従来どおり紙ベースで行われていることが確認された。

図6
ダッカ市における会計システムとEMRの導入状況

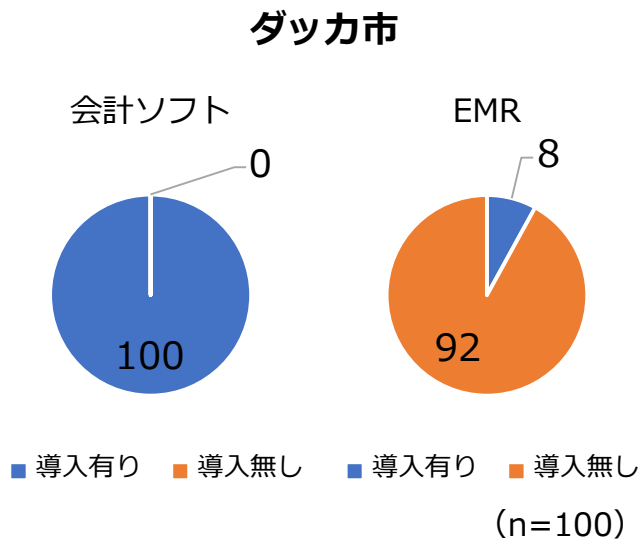
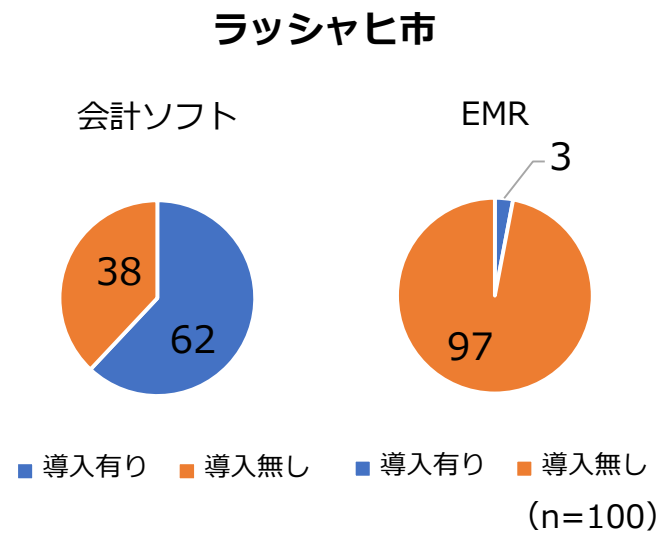


図7
ラッシャヒ市における会計システムとEMRの導入状況



1.1 薬局・医療機関の現状（6/6）

■ 医療機関におけるサービス供給の流れ

- 医療機関を訪れた患者は、受付を経由せずに直接医師がいる小部屋（Chamber）に入室し、診察・治療を受ける流れが一般的である。
- 初診・再診に関わらず患者は直接医師に掛かるため、日本のように医師の診察前の予診（問診、検温など）は行われていない（受付は主に会計業務の役割を担っている）。
- 医療機関側も患者の初診・再診の区別がつかず、患者の予備情報もないため非効率が発生している。

➡miup社製品導入により、医師があらかじめ予備情報を持った上で診察することが可能となり、効率的・効果的な診療に繋がるものと思われる。

■ 医療機関と薬局の関係性

- 公的医療機関では十分な治療が受けられなかったり、提供されるサービスの質が低く、患者は私立病院等での自費診療に頼ったり、薬局で医薬品を購入して対応せざるを得ない場合が多い。そのため、私立医療機関と薬局が患者・顧客を取り合う競合関係が生じている。

➡ miup社製品導入により、薬局から医療機関への患者紹介や医療機関の診断・処方に基づく薬局での医薬品販売といった私立医療機関と薬局との連携関係構築が期待される。